

福祉サービス第三者評価結果報告書

2011 年 3 月 4 日

東京都福祉サービス評価推進機構
財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0017
東京都新宿区左門町3番地
所在地 左門イレブンビル3階

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

評価機関名

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-3352-6730

代表者氏名 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0303063
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0702006
		(規定により氏名非公表)		経営	H0304082
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	バオバブ保育園				
事業所連絡先	〒	206-0002			
	所在地	東京都多摩市一ノ宮1-20-3			
		042-375-4640			
事業所代表者氏名	山根 孝子				
契約日	2010 年	7 月	1 日		
利用者調査票配付日(実施日)	2010 年	7 月	27 日		
利用者調査結果報告日	2010 年	9 月	22 日		
自己評価の調査票配付日	2010 年	7 月	26 日		
自己評価結果報告日	2010 年	9 月	22 日		
訪問調査日	2010 年	9 月	30 日		
評価合議日	2010 年	12 月	6 日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたり、理解促進のため、調査票の配付時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状を添付するとともに、園内掲示用のポスターを作成した。また調査開始後に提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付し、提出促進の一助とした。事業所職員対象の説明会では、所定の事項の説明のほか、評価項目への理解を深めることについても配慮し、自己評価実施にあたっての質問を随時受け付ける旨を伝え、よりの確な自己評価実施に配慮した。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2011 年 2 月 26 日

事業者代表者氏名

印

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯95を対象として実施した。
なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は標準様式に準拠した。調査票に添付の封筒による機関への直接郵送にて回収し、調査結果は選択式設問・自由回答ともすべて園に報告した。なお自由回答の取り扱いについては、回答者の匿名性に配慮して、表記の加工などの処理を適宜行っている。

利用者総数

95

共通評価項目による調査対象者数

95

共通評価項目による調査の有効回答者数

63

利用者総数に対する回答者割合(%)

66.3

利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」55.6%・「満足」38.1%の計93.7%と高い支持を得ており、自由意見では「バオバブの元気な外遊び。“ちょっとしたケガや痛い思いできる、貴重なたくましい仲間との育ち合い”。ぜひこれからも大切にしてほしい」「食事は材料からこだわりがあり、手作りしてくれて、素晴らしい」「子どものことをとてもよく見てくれ、日頃の送り迎えにも子どもの様子や園での姿を伝えてくれて、ありがたい」「職員の方々がバオバブが好きで、生き生きとしているのがわかり、とても良い雰囲気」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、職員の体制や子ども・保護者への対応、日々のコミュニケーションや情報発信、保護者の負担への配慮などに関するものが主に見られた。設問別では「食事」「戸外遊び」「プライバシー保護」「子どもが大切にされている」など15問中12問で80%台～100%の高い支持を得ており、50%を下回ったのは「安全対策」の1問である。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	59	3	1	0
選択の割合(「無回答・非該当」を除く・以下同)は、「はい」が93.7%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は7件で、「年齢別の献立があり、栄養価や調理法など工夫されているのがとてもよい」「メニューが多く、野菜もたくさん使っていてよい」などのほか、延長保育時のおやつなどについての意見が見られた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	61	1	0	1
「はい」が98.4%、「どちらともいえない」が1.6%となっている。 自由意見は「地域の自然を楽しむ機会が多く、かなりの距離を歩いている」「春先や秋、夕方は涼しくなるので、激しい水遊びは控えてほしい。それが原因での発熱は困る」の2件があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	5	1	6
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が8.8%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は「あまり経験がないのでわからない」の1件があった。				

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：バオバブ保育園)

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	48	13	1	1
<p>「はい」が77.4%、「どちらともいえない」が21.4%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は5件で、「柔軟に対応してくれるのでわが家は助かっている」のほか、保護者への報告や保育中の保健対応などについて意見が見られた。</p>				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	28	28	4	3
<p>「はい」が46.7%、「どちらともいえない」が46.7%、「いいえ」が6.7%となっている。 自由意見は12件で、「防犯は対策が厳しくなった」「十分というのは難しいと思うので、今のままで満足」などのほか、外部侵入対策や衛生面について、回答者それぞれに気になる点が挙げられている。</p>				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	54	7	2	0
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は「兄弟のイベントと重なることがあり、調整に困ることがある」「行事を少なくしてほしい」「行事が多いように思う」の3件があった。</p>				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	52	7	4	0
<p>「はい」が82.5%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が6.3%となっている。 自由意見は「人手が少なく、多忙の中なのに、気軽に相談してくださいと言ってくれてありがたい」「気軽に話せる雰囲気を作ってくれていると思う」「相談しやすい人とそうでない人がいる」など5件があった。</p>				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	54	8	1	0
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は「個人面談の際に丁寧に聞いてくれる」「各家庭の価値観を尊重してくれている」「方針については家庭が園に合わせることもあるような気がするが、不満に感じたことはない」「職員によって聞く姿勢に差があるように思う」など5件があった。</p>				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	52	3	1	7
<p>「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が5.4%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は「多分？ そう思う」の1件があった。</p>				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	56	7	0	0
<p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は「保育の様子をアルバムにしてくれたり、お便りで教えてもらえて嬉しい」「通常保育時は大切にされていると感じるが、延長保育時はあまり感じない」の2件があった。</p>				

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：バオバブ保育園)

11. 職員の対応は丁寧か	51	11	1	0
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は「若い職員の方が一生懸命で、とても好感がもてる。ベテランの子育てアドバイスは嬉しい」「園で職員の方々と挨拶したり、会話するのが楽しみ」「堅苦しくない程度にきちんとしている」「職員によっては、礼儀に欠く姿もごくまれに見られる」など8件があった。</p>				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	32	22	7	2
<p>「はい」が52.5%、「どちらともいえない」が36.1%、「いいえ」が11.5%となっている。 自由意見は「普段職員が一生懸命やってくれているので、細かいことは言いにくい」「要望は言いやすいが、不満(ささいなことしかない)は言えない。悪気はなくても、子どもの前で(親がいない時に)話が出てしまったら困る」「言って角が立つくらいなら、言わないほうがよい」の3件があった。</p>				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	43	9	1	10
<p>「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が17.0%、「いいえ」が1.9%となっている。 自由意見は「最近では過剰なほどに対応してくれるので、要望するのが申し訳ないと思うこともある」「十分対応してくれている」「経験がないのでわからない」の3件があった。</p>				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	54	0	7	2
<p>「はい」が88.5%、「いいえ」が11.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。</p>				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	9	0	0	0
<p>該当者9人全員(100.0%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。</p>				

組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

共通評価項目	
カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定
サブカテゴリー1(1-1)	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 9 / 9	
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
カテゴリー1の講評	
事業所理念の周知徹底 法人全体での理念として「保育の理念」を定めている。この理念は利用者に対しては「入園のしおり」や「園のしおり」などで表明して配付しているほか、入園説明会や保護者懇談会の機会を利用して説明することにより、周知を図っている。また職員に対しては、保育課程や「B Bハンドブック」(保育マニュアル)を全職員(非常勤を含む)に対して配付しており、年度当初の職員会議で読み合わせを行うなどして確認を行っている。	
経営層の責任遂行 園長・副園長をはじめとした経営層の役割については、「B Bハンドブック」において園長・副園長・総務に関する具体的な業務内容と責任の所在を示しているほか、園長不在時の代行責任者などを明示しており、全職員に周知されている。なお年度当初の職員会議では、内容の確認と徹底も行われている。	
重要案件の決定手順の明確化への取り組み 当法人では主任を置かないこととし、各ブロックにおけるブロックリーダーを設置しており、その役割は「B Bハンドブック」の中で明示されている。重要案件の検討・決定にあたっては職員会議や運営委員会などの各種会議において行われることになっており、各会議の位置づけや役割などについても、「B Bハンドブック」の中で明示されている。決定内容を利用者に伝える手法としては、園便りのほかクラス懇談会や全園懇談会などの機会を通じて説明を行うなどの取り組みを行っている。	

カテゴリ-2	
2	経営における社会的責任
サブカテゴリ-1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4 / 4	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	
評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
<input type="radio"/> 非該当	

サブカテゴリ2(2-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		7 / 7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ2の講評		
職員倫理・ボランティア等の受け入れ 保育課程の中の「職員綱領」という内容で、職員倫理について明示されており、年度当初の職員会議では読み合わせを行っている。また、ボランティアの受け入れに際しても保育課程の中でその内容と役割分担が定められており、年間でボランティア10名程度、職場体験10名程度、実習生12名(21年度)の受け入れ実績がある。なお受け入れ時には、重要事項に関するオリエンテーションを行い、誓約書は受け入れるすべての人から徴されている。		
地域活動・地域への情報 子育て相談(電話相談)や園開放(週2回)、子育て講座(年6回)、保育所体験(年5回)など、さまざまな取り組みを行っており、すでに登録世帯は約150に達している。ホームページを活用して当園の内容を公表したり、地域向け情報誌「プレーメンの庭から」を年10回、各回500部程度発行して地域の関係機関(児童館、市役所など)に配布して周知している。また、雑誌やメディアの取材などを多く受け入れているため、そのような機会を利用した情報公開も積極的に行っている。		
地域のネットワークへの参画 事業者が実務的・効果的に参画できるネットワークが市内に存在しないため、具体的に連携が必要とされる事例では、過去にも各関係機関との連携の実績が複数ある。これらの事例については記録されて職員間での情報共有も行われている。また当園の主導により、地域の児童館や民生委員との交流・連携を積極的に進めようとする取り組みを行っている。		

3	カテゴリ-3
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8 / 8	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
○非該当	
カテゴリ-3の講評	
苦情解決制度の積極的な実施 苦情解決制度が整備されており、第三者委員も設置されて制度の概要が玄関に掲示されるなどの周知が図られているほか、ホームページにも掲載されている。また、苦情受付ボックスについても、利用者調査の結果を受けて設置場所を変えるなど、利用者が利用しやすい環境づくりに努めているほか、投函された苦情についても、お便りなどを活用した回答・周知活動に取り組んでいる。	
利用者意向の把握と活用 毎年行われている利用者調査のほか、保育参加時には感想を収集したり、今年度からは年度当初に保育に関する要望事項をアンケートで収集することを開始しており、個人面談で意思疎通を図る取り組みを開始している。収集された意見に対しては、現在個別に対応を行っているが、今後はこれらを取りまとめて情報共有や改善に結びつけるシステムづくりにつなげていく予定にしている。	
地域からの情報収集・情報公開 地域開放事業の実施時には「相談の記録」を利用して参加者からの意向収集を行っており、そこで収集された意見や要望に対して実際に事業に活用された事例が複数確認されている。現状では、園と交流のない子育て家庭からの情報収集について改善する必要がある課題ととらえており、今後検討していく予定である、とのことであった。	

カテゴリ-4	
4	計画の策定と着実な実行
サブカテゴリ-1(4-1)	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11 / 11	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している ○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる ○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている ○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている ○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している ○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している ○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している ○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当

サブカテゴリー2(4-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		4 / 4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点()
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>中・長期計画策定に向けた取り組み</p> <p>中・長期計画立案に向けた、5年単位・15年間の計画の素案が示されており、今年度から法人内の4園からの立候補ないしは任命による12名の委員からなる「中長期計画試案検討会」を発足させ、中・長期計画の完成に向けた新たな取り組みを開始している。この検討会では、来年3月に試案を策定することを目標に、毎月1回の定期的な討議を重ねている。今後予定どおりにさらに詳細な中・長期計画の立案が実現されることが期待される。</p> <p>年間事業計画と実行計画の策定と実行</p> <p>現在の年間事業計画は、施設ごとの運営計画として策定されている。中・長期計画自体が2011年度からの実行を想定しており、今年度については中・長期計画と年間事業計画の連動性は確認できない状態にあるため、今後の「中長期計画試案検討会」における議論の進捗が期待される。年間事業計画の進捗状況については「経過報告」として概ね四半期に一度の理事会において報告がなされている。なお、日常の業務遂行については「年間予定表」が策定された上で「委員会・係担当一覧表」において担当者が定められている。</p> <p>安全確保への取り組み</p> <p>ブロックリーダーを中心として構成された「安全衛生委員会」が組織されて月1回の定例会議が実施され、情報共有が行われている。この委員会では、毎日実施する園庭チェックや月1回実施される事故防止チェックなどをもとに再発防止策が検討されたり、各種訓練の反省などが行われる。また「インシデント報告書」を活用した事故情報の収集を行って連絡会議などの機会を利用して情報共有を図ることにより、再発防止への注意喚起を行っている。利用者調査では外部侵入に対する懸念が散見されているが、施設の改修や警察の指導などの対策を講じている。</p>		

5		カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上		サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	8 / 8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当	

サブカテゴリー2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7 / 7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる ○非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている ○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる ○非該当
カテゴリ5の講評	
理想の職員像の明示と徹底・職員採用・職員配置 「BBハンドブック」の中に「職員として心がけたいこと」として、子どもとの接し方や保護者対応など、当園の求める職員像が列挙されており、年度当初の職員会議においては確認を行っている。採用にあたっては、論文・アンケート・面接によって行い、当園の状況に合わせて必要な人材を確保しているほか、職員配置に際しては、職員の希望アンケート、ヒアリングの上、園長が案を作成、職員の討議を経て会議で検討することとしており、職員の希望や意見を採り入れた上で園長が決定することとしている。	
職員の育成手法 職員個々の育成マネジメントに取り組んでおり、毎年3月に前年度設定したテーマの到達度合や今年度のテーマ設定を行った上で個人面談を行い、この場を利用して前年度の業務の自己評価などが行われる。また、参加すべき研修会については職員の希望をもとに決定することとしており、研修報告も記録・整備されている。研修に参加した場合にはこの研修報告を全常勤職員に配付して情報共有を図ることとしている。	
職員処遇と福利厚生・非常勤職員との情報共有化 職員自己評価では時間外勤務や疲労などについての要望が散見されているが、経営層も認識を持っているためカウンセラーを導入したり、休憩時間を職員の自主的な判断を尊重して設定する等の配慮を行っている。加えて非常勤職員との情報共有についての問題点の指摘が見られるが、各種会議を活用した情報交換などにも取り組んでいる。また職員配付物を原則として常勤職員と同じものを配付し、全職員用のウォールポケットを利用して連絡会議報告の共有化を図るようにしているほか、各種訓練は非常勤職員の参加できる時間帯で行う等の配慮も行っている。	

7	カテゴリー7	
情報の保護・共有		
サブカテゴリー1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7 / 7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点()
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点()
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
カテゴリー7の講評		
個人情報保護への取り組み 個人情報保護規程が整備されており、ホームページにも掲載されている。利用目的は各種情報収集時の様式にそれぞれ明記されており、適切な運用が行われているとともに、開示請求に関するルールは個人情報保護規程の中に明示されている。なおボランティアや実習生からは、個人情報保護に関する誓約書を徴するなどの取り組みを行っている。		
アクセス権限の設定 PCはパスワードを設定することによってアクセス制限を行っているほか、紙情報のうち必要なものには施錠を行うなどしている。		

カテゴリー8	
8	カテゴリー1～7に関する活動成果
サブカテゴリー1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
組織運営に関するさまざまな取り組みへの着手 平成21年度に保育課程の策定にあたり、「職員のためのしおり」をもとに新たなシステムを構築したり、ブロックリーダー制度を導入するなど、組織改革を意識したさまざまな取り組みに着手している。さらに今年度から「中長期計画試案検討会」を発足させて、23年3月の策定を目指している。また地域との連携においても、地域に見られない連絡ネットワークの形成に向け、当園が中心となって取り組みを行っている。	
サブカテゴリー2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
保育の質の向上・確保に向けた書類等の整備 保育課程や「BBハンドブック」といった、全職員で共有すべき基本事項についてとりまとめ、それを非常勤職員を含めた全職員で共有できるように配付、見直しを行うといった取り組みを開始している。	
サブカテゴリー3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
事例検討会議での職員間の話し合いによる保育の充実 毎月の保育会議、半期ごとの振り返りによって日常の保育実践の振り返りを行うとともに、年2回行う事例検討会議において職員間で話し合い、保育の充実につなげている。日誌からエピソードを抽出、事例を挙げたり、個別の子どもの様子に焦点を当てるなどしてブロック単位で検討し、遊びの充実などの成果が得られるとともに、個別の関わり方について他児の状況を参考に参考にする等、職員間の認識の共有にもつなげられている。	

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

計画的な資金留保への取り組み

施設の建築計画等に基づいた資金計画を策定しており、それに従った資金留保が計画的に実行されている。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

より綿密な利用者満足のための取り組み

今年度から個々の利用者の希望をより詳細かつ的確に把握するため、年度当初に保育に関するアンケートを行って情報を収集しており、これによってよりきめ細かいサービス提供のためのツールとして活用している。このアンケート収集は、今後定例化・システム化する予定としている。

サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

共通評価項目																
サブカテゴリ-1																
1	<p>サービス情報の提供</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4 / 4</p> <p>評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している</p> <p style="text-align: right;">評点()</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当														
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当														
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当														
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当														
サブカテゴリ-1の講評																
<p>園の保育の特色や思いを詳しく伝える「園のしおり」とホームページ</p> <p>入園希望者や来訪者が入手できる紙ベースの広報資料として、同一法人のバオバブ保育園ちいさな家(以下「ちいさな家」と共通のパンフレット(「園のしおり」)を作成している。シンボルツリーであるバオバブの紹介、デイリープログラムや年間行事のほか、保育目標や心がけている保育の方針、食事サービスの特色など、園の特徴や保育提供の考え方を詳細に伝えている。ホームページは法人運営4園合同で開設し、各園の保育の特徴や地域支援事業について、画像も活用して伝えているほか、第三者評価結果も掲載している。</p> <p>行政との連携や地域資源の活用による情報の発信</p> <p>パンフレットは市役所で常時入手可能であるほか、市主催の保育所合同説明会に参加して専用ブースで説明・展示を行ったり、市発行の保育所案内に情報を掲載するなどしている。また地域向け広報紙「プレーメンの庭から」(年10回発行)を地域の健康センター(保健所)・児童館などで配布している。南門側に設置した地域向けの掲示板では地域支援事業や園の行事の案内を掲示しており、行事の際には児童館などでもポスターを掲示している。</p> <p>来訪者の要望や特性に配慮して園の特徴を伝える見学対応</p> <p>見学は要望に応じ、子どもの活動や乳児の食事時間などに配慮しながら、基本的には午前10時以降の午前中を勧めているが、午睡時間帯や土曜日の見学にも対応している。当日は保育の考え方や特色、食事、「ちいさな家」との連携や保護者会「ぞうの会」の活動などについて説明し、各保育室で保育の様子を見てもらうほか、子ども達が取り組む木工製作や栽培している果物、飼育している動物なども紹介し、園の保育の特徴を詳しく伝えている。また外国籍の保護者の来訪時にはその国の言語に堪能な職員が同席することもあるとのことである。</p>																

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園にあたって保護者に行う説明と同意の意思確認</p> <p>内定後、「保育予備調査票」「生活状況調査票」など保護者の記入書類とともに案内を発送、「ちいさな家」と合同で説明会を実施、「入園のしおり」に沿って園長・保健担当・保護者会代表が説明するほか、乳児担当や副園長も加わって質疑応答を行う。説明会后、同日またはその後の期間に各保護者と面接を行い、準備物や通園に際しての利用のアドバイスなどを伝えている。説明と質疑によって利用開始に際しての同意を口頭で確認するほか、ホームページや取材での写真掲載、緊急時の連絡方法や緊急連絡網への記載については書面で意思確認をしている。</p> <p>一人ひとりの支援に向けた情報の記録と職員間の共有</p> <p>入園時に保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」をもとに個別に面接を行い、保育開始に必要な子どもの情報を把握している。面接は保護者との最初の顔合わせの機会となるため、可能な限り各年齢の担任全員が参加している。面接で把握した情報は記録し、前掲の各様式に保護者が記入した情報とあわせ、各園児について児童票を作成、個々の情報を管理している。新入園児の多くが乳児であることから、乳児の関係職員によるブロック会議を実施し、関係職員全体での共有を図っている。</p> <p>短時間保育や家庭との連携による入園時の子どもの負担軽減、利用終了後の支援</p> <p>入園当初は子どもの負担軽減を考慮して短時間保育を実施、各園児の保育時間や配慮事項は個別に計画を作成するほか、可能な保護者には来園してもらい、実際の保育や園の食事を体験してもらい配慮もしている。個別の生活リズムを把握し、冷凍母乳への対応など、家庭生活との連続性に配慮している。就学前には担任と年長児による小学校訪問、小学校教師を交えた懇談会を行っており、卒園・転退園世帯とも年1回発行の「バオバブ通信」を送付して園の近況を伝えるなど、利用終了後の支援の継続に努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12 / 12
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>法人独自の「BBハンドブック」と保育課程に基づく保育の計画及び実践・記録</p> <p>法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」に加え、21年度に保育課程を作成、園の使命や保育者の使命、年齢別の保育の重点項目等が詳細に記述され、それらをもとにして年間計画を立てている。また計画の立案、記録には一部課題が見受けられるが、年間・月案・週案を作成し、日誌にて日々の様子を記録している他、半期分反省及びクラステーマ(年度毎にテーマを決定)の中間報告(エピソード記録)をまとめ職員間で共有したり、乳児と幼児別々に土曜日誌を作成する等、日々の子どもの成長を大切にしながら保育を実践している。</p> <p>個々の子どもの育ちを尊重したきめ細かい配慮</p> <p>子どもの状況については、入園時の面接・個人面談(年2回)・グループ面談・状況に応じて家庭訪問を実施すると共に、日々の状況は、連絡ノートや送迎時に把握し、必要に応じて職員間で共有化を図っている。また年長児については、今年度アンケート調査を実施、家庭で大切にしていること、園児の様子で伝えたいこと、園に希望することを調査し、担当職員のクラス運営の参考にする等の工夫をしている。また3歳未満児に関しては、一人ひとりの把握を行い、クラスミーティングにて話し合い月別の計画を作成する等、個別対応をきめ細かく行っている。</p> <p>保護者や職員間の共有化に向けた取り組み</p> <p>全園保護者懇談会の際にプロジェクターにて「今年のクラスのテーマ」や園全体として大切にしていること等を園長が説明すると共に、各クラスにおいても写真を使用したり、資料を配布して説明し、園での保育についての理解を深めている。また乳児・幼児ブロック会議・保育会議では月案と個別の子どもの状況を話し合い保育に活かすと共に、必要な情報や子どもの発達については、定期的に把握し、計画や記録に反映させ、日々の保育に活かしている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7 / 7
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点()	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点()	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している		○非該当
◎あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものプライバシーや羞恥心への配慮</p> <p>子どもや家庭のプライバシー、個人情報等の保護については、保護者への周知に一部課題があるものの、「入園のしおり」等に記載し、入園当初の個人面談でも登降園に関する説明を行っている。保育現場での情報の取り扱いについては、さらなる配慮が望ましいと思われる場面も見られ、ルールの明確化と徹底を期待したい。羞恥心への配慮として、プール遊びでは衝立を使用したり、トイレでは子ども達にドアが閉まっている時は声かけをして入るように促しているほか、「子どもの性について」と題した研修を実施し、性教育について学ぶ機会を持っている。</p> <p>子ども一人ひとりの尊重や個々の家庭への配慮に向けた組織としての取り組み</p> <p>法人運営4園共通の職員規範である「BBハンドブック」や保育課程、「バオバブ保育園職員綱領」などの中で、一人ひとりの尊重など職員としての基本姿勢を明示し、年度当初の全体会議で確認するとともに、それぞれの子どもや状況や配慮については各クラス会議や乳幼児のブロック会議で情報共有している。個々の家庭の事情や生活信条等は日々の交流や面談等で把握し、個別に対応を行うとともに、必要に応じ、関係機関とも連携した見守りを行っている。「BB～」や保育課程に関しては、作成時と入職時に研修や読み合わせを行っている。</p> <p>虐待の早期発見と適切迅速な対応に向けた体制整備</p> <p>「BBハンドブック」中に「困難な問題を抱えた家庭への支援」として章を設け、家庭支援や虐待への早期対応について言及している。発見や報告・連絡等については特にマニュアル等はないが、疑いが見られた場合は園長が関係機関に通知することとなっているほか、配慮が必要な家庭については担当者を固定し、細やかで遅滞のない対応につなげている。また関係する研修や関係機関主催の連絡会への参加、会議等による職員間での共有を図っている。今後、虐待の早期発見などに向け、内部での勉強会等の実施も期待したい。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11 / 11
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>職員として求められる考え方や手順等を網羅した「BBハンドブック」</p> <p>原則として非常勤職員を含む全職員が所持する「BBハンドブック」は遊びと活動、保護者との交流、食事・食育、保健・安全、地域子育て支援など全7章からなり、法人運営園の職員に必要な知識・手順等がまとめられている。また保健衛生に関するマニュアル類を2園共同で整備し、各クラスに常備している。「BBハンドブック」については作成時の読み合わせ以降、配付のみにとどまっておらず、内容の理解や現場での徹底を点検する仕組みの確立が待たれる。内容の見直しについても話題に上り始めているとのことであり、ともに今後の検討を期待したい。</p> <p>定期的な振り返りの機会と内外の研修等による職員の資質向上</p> <p>日常の保育実践については年間指導計画に基づいた振り返りの機会を年2回設け、別に毎年度末に行う全職員による反省では、年間の取り組み状況や年度当初に設けた各人のテーマの達成度合を振り返っている。園としての方針や考え方にそぐわない対応等があった場合は、リーダー層がそのつど指導するとともに、必要に応じて日常の打合せ等の中で共有している。また法人4園合同の内部研修を年2回、園内での研修を2～3回実施し、それぞれ外部講師を招いて学んでいるほか、各人が年度当初に設定したテーマに準じた外部研修に各職員が参加している。</p> <p>安全衛生委員会が中心となって行う、安全な保育提供のための取り組み</p> <p>保育中の危険事例や事故・ケガについては、内容に応じ「インシデント報告書」「事故報告書」が提出され、内容の報告・共有は毎日のミーティングや定例の会議の中で行われている。訪問調査当日には衛生面への配慮の点で一部に課題も見られたが、園舎内外の安全点検をチェックリストを用いて毎月実施し、その結果や各種訓練の反省について、職員参画による「安全衛生委員会」の中で検討するなど、日常保育における安全確保に取り組んでいる。同委員会ではほかに防災・防犯関連の点検や訓練開催なども行っている。</p>			

サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	37 / 37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>発達に応じたさまざまな環境構成への工夫</p> <p>0・1歳の各部屋では、活動・食事・睡眠のスペースを別にし、個々の子どもの生活リズムや発達に応じて対応できるように配慮されている。各クラスとも子どもの発達に応じた玩具が調えられ、特に木や布の玩具などが設置されている。また自然物のモビールを天井から吊るしたり、職員の手作りの玩具や乳児では保護者が作成した個人持ちの玩具など、子どもが自由に玩具や活動を選び集中して行ったり、子ども同士で遊ぶなど、子どもの興味関心によってさまざまな遊びが展開できるよう、環境構成に工夫を施している。</p> <p>子どもの責任感や協力意識をもつ当番活動への取り組みや子ども同士の関わりへの配慮</p> <p>当番活動では、3歳より職員のお手伝いを行う意識付けから始め、4歳以上では食事と飼育当番を行っている。食事当番ではグループ内の配膳等、責任をもってリーダーの役割を担う場とし、飼育当番では協力して清掃や水やりを行う等、明確な意識をもって取り組めるようにしている。「BBハンドブック」に子どもの発達における「ぶつかり合い」に関する項目を記載、子ども同士のトラブルへの対応について、必要に応じてクラスで確認する等の配慮を行っている。文化や習慣の違いに対してはあえて意識した保育は行わず、個々の状況に応じて対応をしている。</p> <p>個別の子どもの育ちに配慮した職員の取り組みと共有化</p> <p>3歳未満では個別に月案(月間計画)を立て、毎日の様子も個別に日誌に記載、3歳以上はクラスの月案の配慮事項として記入し、日誌や月案に状況を記載するほか、事例検討会議で話し合いを行っている。また日々の子どもの様子はクラス会議で共有化を図り、月案に反映させている。障がい児に関しては必要に応じて巡回指導を実施、その際に記録を取り、担当職員間で共有を図り、他のクラスの職員に適時口頭で説明する等、きめ細かな対応を図り、子どもの育ちを保障している。今後は情報の記録や共有化の範囲の明確化等、さらなる整備も期待したい。</p>			

2 評価項目2		家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点()
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評				
<p>日々の情報交換による保護者との連携 子どもの様子について、保護者に伝えたいことを「登降園チェック簿」に記し、保護者からの情報は2歳以下は全員、3歳以上も希望に応じて「子育てノート(連絡帳)」にて確認、ノートがない場合は園の指定の用紙に記入して保護者に伝えている。3歳以上では毎日壁新聞を作成、玄関ホールに掲示し保護者へ様子を伝えるほか、個別対応が必要な場合には送迎時に担当職員がいない場合、直接保護者へ電話連絡をする仕組みとしている。また保育中に発生したケガ等については毎日のミーティングで報告して記録に残し、保護者には口頭で説明している。</p> <p>基本的な生活習慣の確立に向けた環境への工夫 食事・排泄等の基本的な生活習慣の確立に向け、1歳より着替えをストックしている棚は子どもの手の届く位置に自分用のマークで特定され、自分で着替えを取り出せるように配慮している。また着替えを行う際にも着脱用の椅子を設置、着替えがスムーズに行えるようする等、子どもの発達に応じた配慮を行っている。また個別の状況については、個人面談時(年2回実施)に把握し、日々の「子育てノート」にて家庭と連携を図りながら進めている。また職員は「BBハンドブック」で子どもの発達状況や援助の仕方等を常に確認できるようにしている。</p> <p>午睡時の個別対応と就学前の午睡の対応 午睡の際に眠くない子がいる場合には、一定時間横になった後で別の部屋にて過ごさせるようにしたり、0歳児は寝る場所を特定し、安心感を持たせるようにするなどの配慮をしている。また夜に眠れない子は早めに起こす等、その日の状態や個別の生活リズムの状況に配慮した細かい対応をしている。また年長児は就学前への配慮から午睡のない日を12月より設定し、徐々に午睡を減らすと共に、設定日以外にも早めに起こし、就学に備える工夫をしている。</p>				

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点()

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

園内におけるさまざまな環境づくりへの配慮

各クラスには子どもの発達に応じた玩具が棚にセッティングされているほか、全クラスにままごとコーナーを設置、0歳では柵を活用し、手先を使って遊ぶ玩具をはめ込んであり、子どもがつかまり立ちをしたり、玩具で自由に遊べるような工夫を施している。また年齢によっては、玩具が置いてある場所には写真を貼り、自分で片付けができるように配慮している。またダイナミックな活動ができるスペースと机で落ち着いて行う活動のスペース等、子どもの状況や子どもの発達に応じてさまざまな活動ができるようにコーナーを分ける工夫をしている。

小集団での活動や環境設定の工夫など、発達に応じた保育提供に向けた取り組み

3歳未満は発達に応じて小グループで過ごすように配慮すると共に、3歳は話を聞く時や製作を行う時は小グループで、また4・5歳でも手先を使用する細かい作業の時は小グループで行う等、活動に応じて配慮している。また3歳未満は食事・活動・睡眠の場所を分け、子どもの一日の活動がスムーズに行えるように配慮すると共に、天気の良い日はベランダへはいはいで出ていけるように段差を極力なくす工夫を行ったり、発達を促す遊具を設置する等、子どもが主体的に自らの身体能力を獲得できるようにさまざまな工夫を施している。

園外保育での自然体験によるさまざまな活動

園外保育として、ヨモギ摘みやお花見、山に行つての崖登りを行うほか、多摩川河川敷で遊んだり、公園で水遊びを行うなど、季節に応じて子どもが園外へ出かけ、自然を肌で感じる機会を多く持っている。よもぎ摘みで積んだヨモギをヨモギ団子にしたり、染め物にして鯉のぼりを作成する等、自然体験をクッキングや表現活動に活かしている。また年長児はキャンプを行う等、さまざまな外部での体験を通して、子どもの成長を促している。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点()
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの主体性や協力し合う大切さを育む行事 1月に実施する「劇とうたの会」では、5歳はクラスでの話し合いから始め、使用する道具も子ども達が考え作成、配役も自分達で決める等、主体性を尊重し、協力して作り上げる行事としている。また一連の流れは「エピソード」として保護者へも配付している。3・4歳についても配役を自分のなりたいものにする等、発達に応じた関わりの中で行事に取り組んでいる。また「プレイデー(運動会)」では親子でふれ合い、担任・友達と一緒に遊びを楽しむ機会を設け、集団遊びの中で協力したり、役割分担をしたりする中で、さまざまな葛藤も経験している。</p> <p>自然体験や合宿等での子どもの成長を促す取り組み 年長児が実施する2泊3日の合宿では、家族と離れた土地でのさまざまな自然体験を通じ、協力し合うことや仲間意識を高めること等を目標として実施、専門家による指導のもと、源流を登り、ライフジャケットを着て川の流を感じたり、マス掴みやキャンプファイヤー等、日頃では経験できないダイナミックな自然体験を行っている。また4歳は園内でお泊り保育を実施、家族と離れて園に泊まることで、さまざまな経験や感情を友達と共有し、仲間意識を深めることを目標におき、山への遠足や花火の観賞等を通して、子どもの自信と成長につなげている。</p> <p>地域の人々との交流を通じて促す人間関係の構築 年長児が近隣の高齢者施設に招待され、歌を披露しているほか、「バオバブフェスタ」は地域にも開放し、子ども達が保護者や地域の人々とともに楽しむ機会としている。また園庭開放の際には、来園した地域の親子と一緒に遊んだりしている。ボランティアや実習生の受け入れ、中高生の職場体験も行い、保育を通じて子ども達と一緒に過ごす機会としている。昨年度は毎日夕方中学生が来園し、子ども達と一緒に過ごしていた実績もある。また学童の延長保育で小学校1年生が来園し、年長児が共に過ごしている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間過ごす子どもの育ちを豊かにするための保育環境の創意工夫 園児は長時間を園内で過ごすため、日中より部屋での活動に限らず、さまざまなスペースを活用できるように保育環境に配慮している。玄関ホールでは図書コーナーを設け、子ども達が落ち着いて絵本と向き合うことができ、廊下スペースでは椅子とテーブルを設置し、気分を変えて絵本や玩具で遊べるようになっている。ホールでは部屋ではできないダイナミックな遊びが展開できるように遊具を設置したり、天気の良い日はベランダにて活動を行う等、保育室以外の環境を有効に活用しながら、子ども達が飽きることなく一日を過ごす工夫をしている。</p> <p>延長保育時間帯の保育提供や保護者への情報伝達のための配慮 延長保育用の遊具を設置し、子どもが夕方落ち着いて遊びができるような玩具やお絵かきノート、パズル、ゲーム等を揃えている。延長保育の時間帯は小学1年生までを預かっているため、人数の関係上、クラスを分けて合同保育を行っている。合同保育の時間についても保育日誌に記録し、適宜翌日に報告している。保護者との連携に向けた配慮として、担当職員から保護者へ伝達が必要な事柄については「子育てノート(3歳未満児対象)」を活用するほか、担任が直接保護者へ話せない場合には電話連絡をし、子どもの状況を伝えるようにしている。</p> <p>異年齢保育の取り組み 朝夕の時間帯には自然な形で年齢の枠を超えて運動遊びやさまざまな自由遊びを楽しむほか、3歳以上は異年齢の小グループ(「BB兄弟」)を形成、年2回3日間の連続した日を設定し、終日「BB兄弟」で過ごしている。「プレイヤー(運動会)」にも「BB兄弟」で競技に参加するなど、さまざまな活動を異年齢で行うことにより、相互の関係性を深め、刺激を与え合いながら、人間関係が豊かなものとなるよう配慮している。子どもの様子はグループごとに日誌に記録し、年間を通して異年齢における個々の育ちを継続的に見守っている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>食材にこだわった食事の提供や献立作成へのさまざまな工夫 旬の食材や生産者が「見える」食材を提供、年長児の部屋には生産者の写真を貼り、コメントを寄せてもらった時は子ども達に紹介し、保護者にも写真入りで掲示して伝えている。また食材は季節に応じた食材を採り入れ、薄味にして食材の持つ味を感じられるよう配慮している。また季節に応じた行事食を実施、鯉のぼりや七夕にちなんだメニューを提供しているほか、3月の献立には年長児のリクエストを反映させたり、天候や季節によってはテラスや園庭等で会食する等、給食が楽しくなるようなさまざまな工夫をしている。</p> <p>クッキング等の行事を通して食を楽しむさまざまな取り組み 冬季には3歳以上が餅つきを経験し、できた餅を全園児で味わっている。4歳では味噌作りをきっかけとして「豆」をテーマにしており、石臼でひいて黄な粉を作り、食べるまでを経験している。またサンマやパンを外で焼き、その場で味わったり、「お楽しみ会食」として3歳以上を対象にホールにて席順をくじ引きで決め、会食をしたり、「お別れ会食」で卒園児のお祝いする等、さまざまな取り組みを行っている</p> <p>栽培活動や収穫の喜びを通して食への関心を深める経験 2歳児はプランターでの野菜栽培、3歳以上ではクラスごとに畑のコーナーを決め、4・5歳は園内の畑でサツマイモを育て、秋に収穫し食べる機会を設けている。また5歳の米作りでは塩水選(塩水に浮かせて重い種を選ぶ)を行うところから始まり、瓶の中で発芽させ、ミニカップで育てた苗をバケツに植えてミニ水田を作り、秋に収穫する。収穫は鎌で狩り、すり鉢と野球ボールで脱穀し、精米した米を、炊きあがりが出る鍋に入れ、「コメ」が「ご飯」になるまでの様子を観察し、食べる、という一連の流れを全て経験し、食への関心を深めている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>保護者とも連携した子どものケガ・病気等の予防の取り組み 園舎・園庭の危険箇所や、園外活動中の安全確保、交通ルールなど、日常の保育の中で随時子ども達に伝え、散歩で訪れる公園などについては場所ごとに危険箇所を明示したマップを作成し、年2回の交通安全教室も行われている。また主に幼児について、手洗いやうがい、歯磨き等について、年齢に応じて子ども達に励行している。さらに「ぞうの会」と協力した取り組みとして、子ども達が利用する公園を保護者が巡るスタンプラリーを行い、保護者の理解を深める取り組みを行った例もあるなど、家庭と連携して子どもの危険防止に努めている。</p> <p>子どもの健康維持に向けた保育所としての取り組み 健康診断・歯科検診を各年2回実施しているほか、歯科検診時の歯磨き指導、手洗い指導など、看護師が保育と連携して子どもに保健指導を行っている。また看護師はアレルギー対応について、状態の変化に応じて保育士・調理担当とともに保護者と面談し、必要な対応を把握するとともに、虫刺されへの対応など、職員への指導も行っている。薬は原則として医師の指示に基づくもののみ、保護者の依頼書に基づいて対応しており、嘱託医とは各種検診のほか日常の健康相談、緊急時の助言など、適宜協力を受けている。</p> <p>感染症やSIDS等に関する保護者への情報提供、予防の取り組み 園内での感染症の発生状況や関係機関からの啓発情報など、保護者向けの保健に関する情報は玄関ホールの掲示板で伝えており、感染症については必要に応じて書面でも通知し、注意を促している。また保健便りを毎月発行し、夏季のプールや登記の感染症などのほか、時季ごとの保健のトピックを掲載している。SIDS予防については看護師が入園時健診や懇談会の際に話をするとともに、年度当初に書面を配付して啓発を図り、日常の保育においては睡眠時の呼吸などについて、0歳には10分間隔で確認を行っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している		評点()
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>「子育てノート」や面談などによる家庭との連携、保護者の事情や就労への配慮</p> <p>入園時の情報収集以降、毎日のコミュニケーションや「子育てノート」(連絡帳)、必要に応じた個人またはグループによる面談、家庭訪問を行い、個々の家庭の事情や子どもの様子について把握している。把握した状況は記録に残すとともに、必要に応じて計画や児童票にも記載し、個別支援につなげている。また行事は主に土日に開催するほか、面談については個々の家庭の都合に応じて個別に設定するとともに、保護者と職員による「ぞうの会」の役員会も夜間に行い、実施中には参加者の子どもの保育も提供するなど、保護者の就労等に配慮している。</p> <p>懇談会や保育参加などによる保護者との積極的な理解共有</p> <p>各クラスの懇談会を年2～3回行うとともに、保護者の保育参加を受け入れており、保育や運営に支障ない範囲で希望の時に実施している。懇談会では実施の時期によってテーマを設け、保育の方針や年齢ごとの発達の特徴、進級・就学に向けた準備などについて話し合うとともに、保護者との理解共有の機会としても位置づけ、意見交換などを行っている。保育参加では保護者が保育に参加し、子どもの発達や育児について見識を深めてもらうとともに、自身の専門・得意分野を子ども達に伝える保護者もいるなど、積極的な関わりが得られている。</p> <p>積極的な情報発信や意向把握、保護者同士の交流機会を通じた絆の深まり</p> <p>「ちいさな家」と共通の「ばおばぶだより」のほか、各クラスの便り、ホームページやブログ、園内での写真掲示など複数の方法で園の保育や子どもの姿を保護者に発信し、「子育てノート」や送迎時の会話などでの毎日の情報交換とともに、意見箱の設置やアンケートの実施など、保護者の意向把握にも努めている。さらに「バオバブ祭り」「プレイデー(運動会)」「バオバブフェスタ」など2園合同での親子参加行事、「ぞうの会」との共催による親睦会、地域支援「プレーメン」への在園世帯の参加など、内外の保護者の交流機会も積極的に設けている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>「プレーメン」が提供するさまざまな地域の子育て支援</p> <p>地域子育て支援として、一時保育に加え、地域子育て支援センター「プレーメン」の取り組みの中で製作や子育て、食育などに関する講座、お散歩会、外部講師を招いての子育て講座などのほか、地域の保護者コミュニティや双子を持つ保護者の会の集まりに多目的室を提供するなどしている。最近は特に食に関する啓発に注力しており、地域支援担当職員が中心となり、梅ジュースや干し柿作りなどを提供している。「ちいさな家」の地域事業「びーだま」との連携や実施後の利用者の感想なども参考に、積極的に推進している。</p> <p>職員参画の委員会による地域支援の検討・見直し、広報紙「プレーメンの庭から」</p> <p>地域支援担当による「地域委員会」が設置され、「プレーメン」の取り組みに関する検討や毎月発行する地域向けの広報紙「プレーメン」の作成などを実施しており、年間の振り返りの中で、各事業の実施報告や反省を行っている。また21年度には「ちいさな家」との合同による地域支援担当者の研修も実施し、外部講師を招いてカナダの子育てや育児支援について見識を深めるなどしている。広報紙「プレーメンの庭から」は年10回発行され、その月の地域支援の詳細や保健・給食の話題のほか、保護者からの寄稿も掲載されている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル	さまざまな機会の創出による職員間の情報共有と研鑽	
内容	<p>事例検討会議を年2回実施、園長が日誌からエピソードを抽出、事例を挙げたり、個別の子どもの様子に焦点を当てるなどしてブロックごとに話し合いを行う。この取り組みにより、クラスの遊びが充実したものになったり、他クラスでの遊びを採り入れる機会となる等、保育の質の向上が図られている。また個別の関わり方について他児の状況を参考にする等、各職員の研鑽にもつながっている。これ以外にも職員会議にて各クラスの計画及び年間テーマについての中間報告を行う等、職員間での情報の共有に積極的に取り組んでいる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している
タイトル	卒園後も家庭と連携して子どもの育ちを見守る伝統とその取り組み	
内容	<p>子どもが園を巣立った後もそれぞれの育ちを見守り、支援していく取り組みをさまざまに行っている。年1回発行の「バオバブ通信」には当園の近況のほか、卒園児や保護者などからの寄稿を掲載、主に卒園・転退園世帯に対して送付し、関係の継続につなげている。また同期の卒園保護者主催の同窓会に職員も参加するほか、園主催で「中学入学を祝う会」「二十歳を祝う会」を開催、成長の節目に卒園児を招いてともに喜ぶ機会を設けるなど、卒園したすべての子ども・保護者にとっての「いつでも帰ってこられる場所」として、独自の取り組みを続けている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	3-1-2	利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる
タイトル	利用者満足の向上に向けた取り組み	
内容	<p>これまでも利用者調査は毎年実施されており、必要に応じて園独自の利用者アンケート・情報収集が行われているが、個々の利用者ニーズに合わせたよりきめ細かい保育を実施するため、今年度から年度当初に保育に関する要望事項をアンケートで収集することを開始している。これによって個々の利用者の情報をより綿密に収集できるようになっており、今後はこれらを取りまとめて次年度から定例化する予定であり、情報共有や改善に結びつけるシステムづくりにつなげていく予定にしている。</p>	

特に良いと思う点		
1	タイトル	自然体験や表現活動を通じ、子どもの主体性や協力し合う喜びを導く行事の工夫
	内容	5歳の合宿や4歳のお泊り保育では、親元を離れて普段では味わえない体験を年齢に応じて実施し、仲間意識を高め、協力し合うことの大切さを学びながら、子どもが自然の中で伸び伸びと成長する機会としている。また「劇とうたの会」では3・4歳が劇の配役を各自がなりたいものとするなど主体性を尊重すると共に、5歳になると劇の内容について子ども同士で話し合い、使用する道具も自分達で考え作成することで、協力する大切さと喜びも感じられるようにする等、子どもの発達に応じ、行事のあり方にさまざまな工夫を凝らしている。
2	タイトル	「子育てを、保護者とともにすすめる」ための、園独自のさまざまな取り組み
	内容	日々の交流に加えて懇談会や保育参加、アンケート等で保護者の意向の把握と理解共有を図るとともに、各種の便りや掲示、インターネットなど複数の方法で情報を発信し、保護者との信頼強化に努めている。また保護者と職員による「ぞうの会」との緊密な連携があり、園のスペースを活用した文庫活動、絵本の貸し出しのほか、各クラスの親睦会を共催で年2～3回行い、茶話会や親子合同の保育活動などを通じた保護者同士の交流、園と保護者の懇親を図るなど、理念に掲げる「子育てを、保護者とともにすすめる」取り組みを多様に、かつ積極的に行っている。
3	タイトル	各職員が自ら関わり、主体的に貢献できる組織としての環境作り
	内容	園の運営において、職員が参画し、能動的に関われる風土が見られる。中・長期計画の作成に向けて今年度から発足した「中長期計画試案検討会」は法人内4園からの立候補または任命による12名の委員で構成され、現場の視点からの提案を汲み取り、検討する仕組みが持たれており、年2回の事例検討会議でも職員間での事例検討や子どもの様子の話し合いなどによって保育の充実が図られている。情報や認識の共有においても非常勤職員も含めてさまざまな工夫を行うなど、各職員が自ら関わり、主体的に貢献できる環境の整備に努めている。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	各計画の整合性と会議録をはじめとする各種の記録の取り方のさらなる向上
	内容	法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」に加え、21年度に保育課程を作成、年間計画を立て、半期ごとの反省及びクラステーマの中間報告、事例検討会議等、さまざまな取り組みを行っている。ただし、保育実践に向けた各計画類の整合性、記録の仕方については、さらなる向上の余地も見受けられた。今後はそれぞれの計画を何のために立案するのか、その意味を明確にし、より実践に役立つ内容や記録とすることを期待したい。また会議録に関しても、職員の共有化がスムーズに行えるよう、記述方法や内容等のさらなる精査も検討されたい。
2	タイトル	「BBハンドブック」など、園としての基本事項のさらなる理解と実践に向けた取り組み
	内容	「BBハンドブック」は概ね全職員が所持し、園の保育や各種業務における基本手順などを示した規範として位置づけられているが、その周知については作成時の読み合わせ以降、積極的な取り組みは設けておらず、その必要性も認識されている。また訪問調査当日にはプライバシー保護や衛生管理の面で、手順やルールの確認と見直しが見望ましいと思われる場面も見られており、それらを含め、日常の業務において守るべき規範・ルールの周知や、その実践状況を組織的に点検する仕組みについて、今後の検討を期待したい。
3	タイトル	個人情報に関するさらなる配慮と地域ニーズのより積極的な収集・活用
	内容	個人情報保護について、保護者には面接時の口頭での同意確認、ホームページや取材での写真掲載、緊急連絡網への記載などに関する書面での意思確認などを行っているが、今後は個人情報全般について、保護者との一層の認識共有を図るとともに、現場での取り扱いについても職員間のルールの明確化と徹底を図ることが望まれる。あわせて、地域からのニーズに関する情報収集については、参加者からのヒアリング程度にとどまっておらず、より積極的な把握や情報の分析と活用の面では、さらなる取り組みが見望ましい状況にあるため、今後の検討を期待したい。